

みつば

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冬 / 夏 まき ハウス	↑ ●	(冬)	↑			↑ ●	(夏)	↑				
春 / 秋 まき ハウス		(秋) ↑		↑ ●	(春)	↑				↑ ●	(秋)	
ハウス周年(水耕栽培)	↑ ● ▲						ハウスは種定植収穫					↑ ● ▲
べと病(ハウス)						——				——		
立枯病(水耕)						——				——		
灰色かび病				——						——		
菌核病				——						——		
根腐病							——			——		
アブラムシ類	——			——						——		
ハスモンヨトウ類						——				——		
ハダニ類						——				——		

べと病

留意事項

- 1 施設栽培では、多発すると周年発生するため、初期の防除を徹底する。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ランマンフロアブル](#) <21> 【2000倍 3日(伏せ込み栽培は伏せ込み前) / 2回】
 - ・ [ピシロックフロアブル](#) <U17>
 - 【1000倍 前日(伏せ込み栽培は伏せ込み前) / 2回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アリエッティ水和剤](#) <P7>
 - 【1000倍 14日(伏せ込み栽培は伏せ込み前) / 2回】

立枯病

留意事項

- 1 5月上旬～6月下旬、9月下旬～10月中旬に発生が多い。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 リゾレックス粉剤及びリゾレックス水和剤の成分トルクロホスメチルの総使用回数は、2回以内（は種前の土壌混和は1回以内）。なお、「みつば（水耕栽培）」で使用する場合、成分トルクロホスメチルの総使用回数は1回。

防除方法

- 1 感染苗を定植しない。
- 2 発生の恐れがある場合は、は種前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [リゾレックス粉剤](#) <14> 【20kg/10a 全面土壌混和 は種前/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [リゾレックス水和剤](#) <14>
 - 【500倍 株元かん注（0.5L/m²） 90日/2回】
 - 【みつば（水耕栽培） 1000倍 育苗期（収穫40日前）/1回】
 - ・ [バリダシン液剤5](#) <U18>
 - 【800倍 育苗期/1回】または
 - 【800倍 移植後（収穫7日前、伏せ込み栽培は伏せ込み前）/3回】
 - ・ [モンカット水和剤](#) <<7>> 【みつば（水耕栽培） 1000倍 30日/1回】

灰色かび病

留意事項

- 1 株元の古葉から発生しやすいので注意して観察する。
- 2 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。
- 3 QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) <<11>>
 - 【2000倍 14日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）/1回】
 - ・ [スミブレンド水和剤](#) <2> <10> 【2000倍 21日/1回】

菌核病

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 は種前に、下記の薬剤で種子消毒する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) <1>
 - 【種子重量の0.5% 種子粉衣 は種前/1回】または

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【500倍 24時間種子浸漬 は種前／1回】

根腐病

留意事項

- 1 培養温度が25℃以上で多発する。22℃以下ではほとんど発生しない。

防除方法

- 1 発生前に、下記の薬剤を水耕栽培液槽に浸漬する。
 - ・ [オクトクロス](#) <ー>
【野菜類（水耕栽培） 水耕栽培液1t当り30×100cm1枚 定植時～収穫時／ー】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [タチガレン液剤](#) <3 2> 【2000倍 14日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）／1回】

アブラムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) <3 A> 【1000倍 21日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）／2回】
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) <4 A> 【2000～4000倍 3日／3回】
 - ・ [ウララDF](#) <2 9> 【2000～4000倍 3日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）／2回】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) <6> 【2000倍 7日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）／2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <1 3>
【2000倍 14日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）／1回】
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5>
【5000倍 7日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）／2回】
 - ・ [マトリックフロアブル](#) <1 8>
【2000倍 7日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）／2回】
 - ・ [BT剤](#) <1 1 A>（Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

ハダニ類

留意事項

- 注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。
- 注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

-
- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カスケード乳剤](#) <15> 【2000倍 7日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）／2回】
 - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【2000倍 3日（伏せ込み栽培は伏せ込み前）／2回】
 - ・ [ダニサラバフロアブル](#) <25A> 【1000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。